



会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
座長	<p>1 開会</p> <p>2 座長あいさつ</p> <p>今年度の懇談会も本日を含めて残り2回となる。</p> <p>来月には、この懇談会での議論の成果を提言という形で市長へお渡しすることとなる。</p> <p>実質的に深い議論ができるのは今日までとなるが、これまでに出了提案もまだ全部消化しきれていないのではないかと思う。</p> <p>今日は分からないところなど積極的に議論いただき、参加した皆さんがそれぞれ佐渡市のデジタル活用の未来に対して具体的なイメージを持って次回を迎えていただければと思う。</p> <p>議論のほどよろしく願います。</p>
椎室長 座長	<p>3 議事</p> <p>1) 「2031年の先の佐渡市への提言」まとめ</p> <p>ここからは議事の進行を座長に願います。</p> <p>それでは、アジェンダP.4から議論を始めたいと思う。</p> <p>事務局より資料の説明を願います。</p>
椎室長	<p>(アジェンダP.4～P.7の内容について説明)</p>
椎室長	<p>P.6の内容については、今回A委員より新たにお送りいただいた内容になる。</p> <p>こちらについて解説を願いたい。</p>
A委員	<p>当初提言した内容がテクニカルに偏りすぎたため改めたものである。</p> <p>2030年までに今考えているデジタル戦略が、行政系のシステムも市役所の中のDXもとことん進めるという前提に立つと、提言したい内容はデジタルではないと思い、ネイチャーポジティブを考えようということである。</p> <p>2030年以降40年50年を見据え、今の子どもたちのためにもやはり自然を取り戻すという意味でネイチャーポジティブから始まっている。</p> <p>人口減少への対処は2030年まで行われるので、増えたり減ったりという状況の中でもデジタルはこの社会の中、島の中に浸透していくので、役場は役場、職員は職員、市民は市民のような感じではなく、佐渡というのは全員が市政に対して参加するような気持ちが必要ではないかということが大事なのではないかと考えて「市民行政」と書かせていただいている。</p> <p>このあたりが恐らく、「自然を守る」「佐渡を守る」のようなことの1つの考え方というか、取り組みなのかなと思う。</p> <p>もう1つは、子どもたちも含めてSNSが色々なところで大活躍するように、心の繋がりみたいなものが希薄になったりするので、これも自然と共に人との付き合い方や考え方など、精神的なスピリチュアルな繋がりというのをもう1回考えてもよいのではないかと考えている。</p> <p>まずは佐渡の方がこういう繋がりを持って、その繋がり賛同する人たちが日本全国や海外から佐渡にいらっやるといようなストーリーである。</p> <p>最後の人工知能は、色々な形のネイチャーポジティブに対する取り組みの中では 本来自然がある</p>

べき姿で循環していくという形に戻さなければならないが、それまでにもう少し人間がサーキュラーになって、色々な手段やAIを使って手を加える必要があると思う。

そういう意味で言うと、AIが社会の中に共存していくということも含めた形で考えていく必要があると思う。

最後は、先ほども言ったが、今の子どもたちのために我々が今何に取り組めるかということである。

我々が今作ったものの中の負面的なものは解決して次の世代に渡したいが、それはなかなか難しいということ、自然に関しては長い時間をかけて取り組んでいきたいというような持続性を若い世代に引き継ぐために、我々が今できることは、やはり2040年・2050年を見据えた上でストーリーを作ることではないかということを書いている。

基本は佐渡という自然をもう1度取り戻すことである。

壊れている部分と、今は全然壊れていないがこのままいくと少し怪しいもの、大自然みたいに変わらないものなど色々あると思うが、全てが破壊されている訳ではない。

とは言え、昔の佐渡の自然を取り戻すということを2040年・2050年に向けた提言として書かせていただいたものである。

ご質問等あるか。

座長

前回の提言内容を改めてP.6の内容に改めるという理解でよいか。

副座長

そのとおりである。

A委員

副座長

すごくいい思っていて、デジタル系の提言でこういう内容のものが出てくるのは非常に素晴らしい。

ほぼ技術的なことや、ソリューションをひたすら提案するというのがよくあるデジタル系の提言だが、本質として市民行政やスピリチュアルな繋がり、そして「ネイチャーポジティブ」が掲げられている。

年間400人以上の移住者がいるが、仕事で来た人で残る人もいるが、転勤で出て行ってしまいう人もいて、残る人はネイチャーポジティブな感じの人が多いいいとか、だから結局、佐渡はブランディングをしていく時に、その本筋のところはこのあたりなのではないかと思って読んでいた。

デジタル系の人たちが提言するのは逆にいいと思う、皆さまはいかがか。

椎室長

佐渡市は「[ネイチャーポジティブ佐渡島宣言](#)」をしている。

すごくいいと思う。

座長

佐渡市のアイデンティティである。

「ネイチャーポジティブのためにどのようにデジタルを活用できるのかの議論をもっと注力してやっていきましょう！」というところまで入れておいた方がよいのではないかと。

ちょうど「[生物多様性戦略](#)」のパブリックコメントが終わり、策定に向けての最後の会議をしていると思うが、生物多様性戦略がネイチャーポジティブを提言していく戦略なので、そこに当懇談会から「こういうものを促進していく上でのデジタル検討をした方がよいのではないかと」というような後方支援的な提言になっていくと、生きてくると思う。

副座長

先に具体的なところから意見をさせていただきたい。

恐らく、この骨子の部分は「具体的に何をするのか？」というところと連結しながら話しをしないといけないと思っている。

すごくいい思っているのは実は2つめの提言で、P.7の「一次産業のDX推進化に向けた支援窓口を担います」に関して、今完全に思いつきで話をする。

昨日上越市にいて、上越市長や産業計の人たちとずっと議論していたが、上越市には上越市のDXを推進する「[ORAJA \(オラジャ\)](#)」というチームがいる。

非常に発想が面白い。

上越市のDXを改善していく組織だが、上越市の中で色々な仕事をしている人たちの中で、「IT系の人たちはここに入らないと村八部にされる」というようなイメージになっているらしいが、佐渡に誘致したIT系の会社はそれぞれがバラバラにやっていて、例えばこの1次産業のDX化で、漁協の皆さんが色々なデジタル化に取り組んでみたいというお話は1度私のところにも相談が来たことがある。

私は直接お会いできなかったが、DX化に関して壮大なお話をされて、おおよその費用感をお話したら帰っていかれたらしいが、今は「動けばよい」というシステムであれば結構安価に作れる。

例えば、佐渡市さんのお仕事をしているようなIT系はORAJAみたいな組織に入って、無償でエンジニアを派遣して地域のDX化を進めるような取り組みをしたらインセンティブを付与するような仕組みがあるとよいのではないか。

佐渡市がお金を出して1次産業の色々なお困り事を解決していくのは財政的に難しい。

しかし、佐渡市のDX化だって色々な業者が関わって進めているので、その業者を入札で決定するのは理解するが、市長はよく「できるだけ市内に来てくれた業者を採用したい」と言っているが、市内に来てくれたというより、地域のDX化に協力している業者に加点できたら、全部は無理でも小さな課題は割りとすぐ解決できるかもしれない。

そういう仕組みができれば面白いのではないかと思った。

いきなり思いつきから話してしまったが、1つ1つの解決をそれぞれの業者がやるのは無理があるし、どこかが負担してやるというのもやはり無理がある。

行政がやるというのはもう右肩下がりすぎて厳しいので、せっかく佐渡にIT系の業者が集まったのならORAJAのいいところを真似て、例えば仕事が空いているタイミングで、課題リストの中から「うちはこちらできますからエンジニアを派遣します」というような仕組みがあればよいと思う。

「貢献ポイント」というか、ただ佐渡にいただけというIT企業と違い、「スピリチュアル的に繋がろう」的なところを高く評価できるような制度と一緒に仕組みができれば面白いのではないかと、急に思いつきで話しているが、図にそれが入っていたらすごく面白いのかなと思う。

この図では、この1次産業のDX化を結局は佐渡市がやらざるを得ないと感じてしまうが、せっかく佐渡に来ているIT系がいるのなら、そこが担えばよいのではないか。

そしてその業者が周りを巻き込んでしまえばよいのではないか。

よろず相談所みたいなものは行政の十八番で、もちろん役には立つが、本当に解決できるかというとなかなかそうもいかない。

その人の人件費や設備費も合わせて年間数百万円という費用だったとしても、それさえも市の中では継続性も踏まえればかなり厳しい査定をされてしまう。

事務局としては、この資料の書きぶりからして、その窓口を担うのがこの懇談会という意味か。

これまでの議論の中で、副座長が口火を切っていただいた議論かと思うが、副座長の口ぶりからは「俺たちがそこを担ってもいいぜ！」というニュアンスを感じたものである。

当懇談会が窓口になるというのではなく、副座長を中心とした佐渡のIT企業チームという想定で書かせていただいている。

私どもで担える範囲はあるが、例えばORAJAみたいな組織を運営する理事みたいな方が、そこに加盟してもらった企業の得手不得手を踏まえて仕事を割り振るような、そこで仕事が行っていくような仕組みがあるとよいと思う。

デジタル技術を持った人たちのプラットフォームという感じか。

そのとおりである。

無料であれば会社単位で仕事を受ける必要もなくて、A社とB社とC社のエンジニアが一緒になって

座長  
椎室長

副座長

座長  
副座長

	<p>チームとして、例えば漁協さんの課題の解決にあたり。</p> <p>でもA社とB社とC社は人件費を払っているんで、当然そこに何か加点ポイントなりが付いて、それが次の入札の時に生きるとなれば企業としても貢献しやすい。</p>
座長 副座長	<p>結局、意図した仕組みを作らないとなかなか競争も生まれないものである。</p> <p>おっしゃるとおりである。</p>
A委員	<p>今、ジャストアイデアで話している内容は、仕組みとしてはあまりないのではないかと。</p> <p>そういう協議会みたいな組織を長岡市で見ているが、IT系だけ集まって「ここに投げてくれ」というより、地場の一般の企業の人たちみたいな日頃からそういうコミュニケーションを取っている感じの人たちがいる中で、「じゃあちょっと頼むよ」みたいな話になるのが本当はいいのかなと思う。</p>
副座長	<p>恐らくIT系だけで集まっても、実際の現場のことを分かっている訳ではないので、頭でっかちな提案をしているつもりはないけれど、日頃からの話みたいにしておけばいいのではないかなと思う。</p> <p>本当にそのとおりだと思うので、「要件定義は先にしてください」というような話ではなくて、スピリチュアルに繋がりがながら課題解決をA社とB社とC社でやると。</p>
A委員 副座長	<p>ただ、それは今まではお仕事の流れだった訳である。</p> <p>上越市も長岡市も。</p> <p>しかし、そのチームが「無償でやりますよ」というような仕組みができれば画期的かなと。</p> <p>ただそれは何らかのインセンティブがないと、やはり思い入れの強弱は当然あるので、入札でプラスになるのであれば、「それなら余っているエンジニアを出して勉強がてらやらせようか」となるのではないかと。</p>
副座長	<p>パッケージというかそれをサービスの的にあちこちの漁協に販売してもいい訳である。</p> <p>例えば、作ったものの著作権はあくまでその3社が持つことにしておけば、販売できればその時は会社にリターンが発生する。</p>
椎室長	<p>でも、「佐渡市で実装する時は0円で開発します」ということでいいと思う。</p> <p>佐渡にも<a href="#">新潟県中小企業家同友会の佐渡支部</a>や<a href="#">佐渡工業会</a>があるが、イメージとしてはそういうところに担ってもらうのが最短距離だと思う。</p>
副座長	<p>提言の段階で完璧なものにする必要はないと思うので、市長に投げておけばいいと思う。</p> <p>佐渡市の中で議論をするというレベル感での提言を、アイデアベースでも今のような話が入っていれば市長としても前向きになる気はしている。</p>
椎室長	<p>あとは、佐渡市がお金を出さなくてもいいということになれば確実にやるはずである。</p> <p>市長も行政改革というか、「民にできることは民に」ということをずっと言っている。</p> <p>こういったところを民が担ってくるとそれはものすごく有益と思う。</p>
副座長	<p>そのとおりである。</p> <p>何らかの公平なルールができればいいと思う。</p> <p>佐渡市から我が社に相談が来るのは、我が社がずっと長い時間をかけて評価を受けてきたという結果であって、それはそれでよいのかもしれないが、せっかく佐渡にオフィスを構えたという人たちが、佐渡の課題を解決しようと思っても、コスト感的に東京の仕事と全く合わなかったり、佐渡市の仕事を取るためにはどうしたらいいか分からなかったりといふのであれば、それなら「みんなでやりましょう」という方がよいと思うし、それが佐渡市の持ち出しにならない形になれば尚更である。</p> <p>例えば、入札の時の加点に地域貢献ポイントをつけるというようなことが考えられないかと。</p> <p>そうすると、競って地域貢献活動をするために中小のIT系が参画するものを作って、その著作権的なものはエンジニアが属した会社に帰属し、「皆さんは使用権で使ってください」という形にすれば販売もできる訳である。</p>

座長	<p><a href="#">デジタル活用計画</a>を策定した時は、各部署に投げてどういう風に課題をデジタルで解決したいのかを出してもらったが、恐らくアイデアが分からないから、どうことができるのかということもあまり分からないまま、皆さん仕方なく出している感じがあったと思う。</p> <p>だから、計画の作り方自体も、課題になっているところを整理するのは行政の各部署だけど、そこをどう解決するのかをこういう組織に投げられるといいと思う。</p>
副座長	<p>我が社などは、スタッフは地域のことをものすごくやりたがっている。</p> <p>しかし会社経営者としては大赤字では続かないので、それを継続していく仕組みを作らなければならぬと思っていて、それなら我が社のスタッフが地域の困りごとを解決していくようなことをしてもよいが、やったらやっただけで今度はどうやって維持するのかを考えなければならない。</p> <p>仕組みは作ったら終わりではないから、何かしらの体制を作っていかなければならない。</p> <p>それは1社ではなくて、10社とか20社が集まってそういうことをできるといいなと思う。</p> <p>その代わり、やれることは小さなことから、全体的なシステムを全部やるのではなく部分部分から。</p> <p>それをこの懇談会が仕切っているような形にしてもらえると動きやすい。</p>
椎室長	<p>提言の形としては、行政が抱える課題を地域の企業や民間が解決するようなプラットフォームの構築ということではどうか。</p>
副座長 A委員	<p>地域の課題を地域の企業が解決するのである。</p> <p>1つ思うが、地域の課題をすべてデジタルで解決できるのかと考えるのは危険だと思う。</p> <p>例えばこの絵のように何でもすべてデジタルにすれば、将来課題が解決するのかというと、恐らく解決しないと思う。</p> <p>商売の仕方を変えたり、生産者の悩みをちゃんと聞いたり、こういうことではなくて、魚を獲る人たちはどのくらいで売れるのかについては興味があると思うが、どういう形で売っていくのかということの心配もしたいと思う。</p> <p>そこまで責任は負えないと思うが、6次産業といっても3次産業の人たちがもう少しバラエティーを取った形で売り先や食べ方も含めて色々なことを考えないと、消費者がどんどん減っていく中でたくさん獲っても余ってしまったり、今まで獲れたものすら獲れなくなったり、新しいものが獲れたけど売り方が分からなかったり、このあたりの仕組み自体を社会の状況に合わせてデザインすることが必要ではないかと思う。</p> <p>そして恐らく、そのデザインを担う人が入ると各々の1次産業の人、2次産業の人、3次産業の人の雰囲気や状況をしっかり掴めると思うので、最終的にはそういうものをきちんとスピリチュアルな感じの繋がりにはするが、1次産業の相手はほとんど自然なので、自然に行き着くぞという意味だと、そのデザインというのはそういう意味合いもあると思う。</p> <p>IT屋であるが、全部デジタルで解決してもらおうのはIT企業がたくさん儲かってよいが、人いなくなる局面でIT設備だけ豪華にしても仕方がないかなと思う。</p>
副座長	<p>おっしゃるとおりである。</p> <p>継続するために、最初からすごく重厚なものを設計して作るのではなく、人がやっている作業の一部をDX化するというところから始めていくとしても、デザインしていかないとバラバラになる。</p>
A委員	<p>その手の話は、船も自動運転で、ドローンなども含めてロボットに行く訳なので、写真もいくらでも撮れるから、それをそのまま自動でサイバー空間の中でセリができてしまうと思う。</p> <p>すべて介入しなくてもよいが、最終的に消費者は少なくなっているのだから、生産者側だけがデジタルで便利になったとしても困る訳である。</p>
副座長	<p>それをこういう懇談会みたいなところで、メンバーも増やしていいと思うし、色々な業者の方に入って</p>

<p>A委員</p>	<p>もらって佐渡の未来をデザインして、それに合わせたやり方ができるのではないか。</p> <p>沖縄の糸満市の漁業組合の方と話をしている、何が問題なのかと聞いたら「メバチマグロが暴れて身焼けすることだ」と言っていた。</p> <p>それはデジタルでは絶対解決できないなと思ったが、漁師さんたちの抱える問題は結構デジタルからかけ離れているところにたくさんあると思う。</p> <p>それをデジタルでの解決以外のところからデジタルの方に寄せていく。</p> <p>2次、3次のようなところに引っ張っていくというストーリーのデザインの仕方がきっとあると思う。</p> <p>結論はまだないが。</p>
<p>副座長</p>	<p>デザインは開発ごとにバラバラに考える訳にはいかない、その方向性や考え方をまとめるのが、この懇談会が今後継続するのであればそういった組織が意見を出せばよい。</p> <p>どういう優先順位で、どういう技術体系で、どのようにメンテナンスする仕組みなのかをしっかりと考えた上で、作ったものに対して品評会をしたり、フィードバックをしたり、そういうところはデザインをする人側が上にいなければならないのではないかなと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>小規模農業にスマート農業を掛け合わせるというプロジェクトに関わった時に、結構大きめの会社で色々なソリューションを持っている方たちと一緒に集落を回り、集落の人の声を聞きながらやろうと思っただが、あまりにもギャップが大きすぎてマッチングなんてとてもできない。</p> <p>地域に入って色々な課題解決をしているうちに、「あ、ここはデジタル」みたいな瞬間がある。</p> <p>でも、デジタルの技術を先に持って行って「こんなすごい技術がありますよ」と言ってもすごく難しいと思ったことと、地域の人たちも「あれに困っています」「これに困っています」とは言っても、困っていることと解決したいことは全然一緒ではない。</p> <p>例えば「田回りが大変だ」と言うから、そうすると技術屋さんは「それならこういう水位の管理のシステムがあります」と言う。</p> <p>そうすると農家さんは、「いやいや、田回りはしなければならない」と。</p> <p>子育てと一緒に、自分で1日1回田んぼを見るということが大事なのだと言う。</p> <p>だから、「大変」と「解決したい」はイコールではないから、丁寧に掘り下げていかないと、本当に地域が欲しているところに手が届くようなことにはならないと思う。</p> <p>それが恐らく、木村委員が言っていたことも、木村委員が日々市場にいて色々感じていることがあり、かつデジタルも興味があるから、「こうしたらうまくいくかもしれない」という発想が出てくるのだと思う。</p> <p>なかなかこのマッチングは難しいと思う。</p>
<p>A委員</p>	<p>IT系にありがちなのが、会話をする前から「意味がありますよ」「課題解決しますよ」と決めつけてしまっていることである。</p> <p>やはり会話をして少しずつ浸透していくような進め方をしないといけない。</p>
<p>B委員</p>	<p>ひどい時は、「システムに合わせてくれ」と言われたりする。</p>
<p>座長</p>	<p>どういう仕組みがあるとそこがうまく絡まっていくのか。</p>
<p>A委員</p>	<p>個人的には市役所の職員が、デジタルデジタルではなく、人間味のある話としてデザインみたいなものの考え方をする役割を担うのがよいと思う。</p> <p>要は市民の方と最も接点がある職員の方に、デザインみたいなものをリードする人が必要なのではないかなと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>いずれにしても単独の課ではできなくて横断的にやっていく必要があるが、逆にそこは行政が最も苦手としているようなところでもあったりする。</p>
<p>座長</p>	<p>本当は総合政策課がそういう立場だと思うが、総合政策課は課としての業務に掛かり切りである。</p>

<p>B委員 椎室長 B委員 副座長</p>	<p>ITやDXに興味がある若い職員が、課に関係なく議論するような組織があったのではないか。 DX推進リーダーである。 少し敷居を下げて、みんなからそういう意見を吸い上げられる形があればよいと思う。 室の中に係を作った方が早いのではないかと思った。 1人か2人いればよいと思う。 横断的なチームはあくまでもあるが、これは佐渡市のDX化のために手を挙げて集まっている人がいて、その中で芽が出ている人が1人2人はいると思うが、実際、公共施設のデータベースを作って頑張っている人もいたので、ああいう人たちが係員としていればよいと思う。 そもそもこの図にあるように、「データに基づいた効率的かつ高度な漁を実現したい」というのは相当高度なレベルであり、漁獲量や漁種のデータを船上から送信するとなるとネットが繋がらないところではできない。 「ああしたい」「こうしたい」というところを整理してできることをピックアップし、かつそれが本当にやった方がよいのか、可否の話と要否の話を検討する担当者が一緒にいればよい。 ただ、そういうのはヒアリングをしなければいけない。 現場からたくさん聞かないと、本業をしながら片足を突っ込みながらやるといって、今でもできる人に仕事集中している気がすごくする。</p>
<p>椎室長</p>	<p>本来であれば、デジタルの計画を作る時にそれらが課題として挙がっていなければいけないと思うが、そうっていない。</p>
<p>副座長</p>	<p>それは市役所内のDXのお話か。</p>
<p>椎室長</p>	<p>デジタル広報室の所管は市役所内のDXかもしれないが、例えば農林水産振興課や農業政策課であれば現場の課題が挙がっていないかならないはずである。</p>
<p>座長</p>	<p>ナレッジが継承されていないのではないかと思う。</p>
<p>副座長</p>	<p>今の流れで提言の内容は大体できたのではないかと考えているが、市役所の中に係でよいので、今までDXで鍛えた人材を2人くらい入れていただき、その人たちが所謂1次産業の色々な方々からのDXに対する相談を受け付けると。 そうしたら「選別してください」と。 「選別する前にひたすらヒアリングしてください」と。 そこからその情報が、この懇談会のような形を続けるのであれば、例えば優先順位をつけたり、あるいは評価をしたりして、実行するのは地域の部隊、IT部隊の有志。 でもインセンティブはつけるという感じで草案を出せば、あとは市長がトップダウンで指示を出すのではないか。</p>
<p>椎室長</p>	<p>関連課が5つくらいあるはずなので、それぞれの課の色々な施策とか新年度の計画も含めて話を聞いて、提言の場にも同席してもらいたいと思う。</p>
<p>A委員</p>	<p>課題を聞いて、課題に対してワンショットでDXで解決するのではなく、実際に1次産業であれば漁業も農業も最終的にどういう形を目指し、それに対してどのように持続させようとしているのかを考えた上で「今の課題は何か？」と。 一旦向き合って「今の課題は何か？」と、「それを解決しないとそこに向かえない」という形で進めていかないと、行政は長い目で見て毎年1個1個積み上げていくのが苦手だが、総合計画を作っているものでそれをしっかりと進めるということだと思う。 国は無駄遣いをしているように見えて、しっかりと重点計画を作ってそれに対して毎年きちんと予算を取って進めている。</p>

椎室長	<p>それを使っている都道府県がワンショットで終わらせているのがいけないと最近思うようになった。</p> <p>やはり、目の前の課題は解決しなければならないが、その先の未来の姿がしっかりと見えていないと、そこに対しての持続性は生まれないと思う。</p> <p>個別計画はあるはずである。</p> <p>ただどれだけの職員がそこを全部見ているのかという疑問ではある。</p> <p>それから、国のお金を取るために制度に合わせて計画を書き換えなければいけないという実態もある。</p>
副座長	<p>「佐渡ではこう進めたい」という計画があっても、書き換えないと財源が引っ張れないことは多い。</p> <p>佐渡市は本当にお金がない。</p> <p>国から引っ張ってきても県が上乘せできないのである。</p> <p>市の持ち出しが多いので、できるだけ国の補助率の高い財源を、たとえ計画に合っていないくても無理やり持ってくるしかない。</p>
座長	<p>残り30分である。</p> <p>この書き方であるが、「支援窓口を担います」というよりも仕組み化を提言することでよいか。</p>
副座長	<p>例として先ほど皆さんで話したような内容を書いておいて、「あとは考えてください」と。</p>
椎室長	<p>そこは事務局で書き換えて、またそれを皆さんにバックする。</p>
副座長	<p>ジャストアイデアにしては結構いいアイデアだと自分で思っている。</p> <p>少なくともORAJAみたいな大きなものをいきなり作らなくても、最初の1社2社は確実にいる。</p> <p>そこでできる範囲でやってみるというような動きができて、それが例えば入札のときに加点されるようなら、経営者だって地域の課題解決に取り組みたい訳である。</p>
座長	<p>我が社のスタッフは本当に地域の課題をしたいと思っている。</p>
副座長	<p>やはり自分の技術や得意分野を生かしたいという感じか。</p> <p>やはりそうらしい。</p> <p>島の子どもたちに「すごい」と言われたいようである。</p>
座長	<p>鎌倉市には<a href="#">Kamacon</a>という取り組みがあって毎月開催している。</p> <p>そこにお悩みがある人が来て相談すると、色々な業種や職種の人が解決策を議論する。</p> <p>私はすごいと思っている。</p>
副座長	<p>そういうイメージでよいと思う。</p> <p>Kamaconでなくて「Sadocon」をやればよい。</p> <p>最初にA委員がおっしゃったプラットフォームはまさにそれだと思う。</p> <p>色々お困り事がある人や仲間を作りたい人がマッチングされて、課題の解決が未来までのデザインも含めた中で1つになってやっていくということができれば、そういう仕組みを作ろうという提言でよい。</p>
椎室長	<p>残りはP.7の「1.交流人口拡大から定住人口増加に向けた交流プラットフォームの構築」の提言内容である。</p>
副座長	<p>「3.総合戦略アドバイザー〈デジタル・DX分野〉はお任せください」は皆さまも異論がないと思う。</p> <p>3つめはしっかりとA委員の名前を書いておかないといけない。</p> <p>「お任せください」とまで書いてある。</p>
A委員	<p>承知した。</p> <p>実は最近総務省の進めている<a href="#">「自治体アクセラレーター」</a>に任命された。</p> <p>「自治体にどんどん行ってくれ」と総務省が言っている。</p>
座長	<p>1つめについて何かご意見等あるか。</p>

<p>椎室長 副座長</p>	<p>私が気になったのが「自律的な住民組織」である。 これはなかなかないのではないか。 行政が言いたがる言葉である。 課題はファシリテーターではないか。</p>
<p>A委員</p>	<p>ファシリテーターが重要で、それさえいけばよいと思うが、佐渡の人がやってもうまくいかないと思う。 「誰かリーダーがいて」という感じにすると、「おじいちゃん」を言ってくるのではないか。 フラットにして、何なら若い人たちが目立つような感じにした方がよいのではないか。</p>
<p>副座長</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>B委員</p>	<p>あまり「組織」というものを作らなくて、何かあった時に「この指とまれ」でわっと集まって、それで打ち上げして解散という形でよいのではないか。</p>
<p>A委員</p>	<p>自律という言葉は不要である。 若い人たちがSNSで繋がっている。 LINEで繋がれる。 組織を作るという表現をやめた方がよいと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>割り如山古志をモデルに考えていたお話だと思うが、山古志には住民会議というそれこそ自律的な組織があって、そこがある程度これを回していたのではないかと思うが、そのイメージである。</p>
<p>A委員</p>	<p>山古志住民会議には代表はいるが、Discordのコミュニティの中ではリーダーはいない。 全員が意見を言える。 それに「いいね」をする。 「いいね」がいっぱい集まったものが採用される。 何か意見が出されたら賛成か反対か全員で投票を行う。</p>
<p>副座長</p>	<p><a href="#">DAO（分散型自立組織）</a>である。</p>
<p>A委員</p>	<p>自立を目指しているサークルがあるならそれをうまく成長させてP.10②の方へ向かわせていくという感じか。</p>
<p>椎室長</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>座長</p>	<p>絶対にそれはできないと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>座長</p>	<p>やはり個人で参加していく仕組みにしていけないといけない。 個人とはいっても、もちろん集落名で参加するのは全然いいが、組織化しようとするのが難しいのかもしれない。</p>
<p>椎室長</p>	<p>ここは「交流を広げたい住民などの活動」くらいの書き方に留めればよいか。</p>
<p>副座長</p>	<p>ルールだけすごくしっかりと明確化して、形はDAOでよいのではないか。 ルールをしっかりとだけでもうまく回ることがある。 例えば自分が参加している起業家団体のEOという組織があるが、東京のベンチャー系の若い子たちがまずここに加入することが憧れというような組織である。 日本では1,300人くらいしかメンバーがおらず、うち130人が上場していて200人くらいが上場準備に入っているという組織だが、その中でルールがものすごく決まっていて、まず「ニックネームで呼び合う」というルールがある。 そして、「アドバイス禁止」「こうしたらいいんだよ」というようなものは絶対禁止で追放される。 さらに、営業活動的なものも一切禁止である。 そうやって集まってひたすら起業家が勉強する、自分を高めるためだけに講義するというような組織が</p>

A委員	<p>アメリカで何10年も前にあって、日本ではまだ40年くらいしか歴史がないが、明確なルールがDAOの中であればよいと思う。</p> <p>ルールに則って評決を取って判断してもらうという形がよいのではないか。</p> <p>そこまでの設計はしてあげる必要はあるかもしれないが、それさえやれば残る課題はファシリテーターである。</p> <p>ちなみに、どなたかファシリテーターをするという方はいないのか。</p> <p>それこそアドバイザーという立場でA委員に担ってもらうのがよいのではないか。</p> <p>市内の人だと結局好き嫌いの感情が走ってしまうのではないか。</p> <p>やはりリアル住民との接点を多く持たないといけないと思うので、初めにリアル住民と会話をするのが重要だと思う。</p>
<p>椎室長</p> <p>A委員</p>	<p>山古志では「雪下ろし募集」をしたら、おじいちゃんおばあちゃんのところへ50人くらい来るらしい。</p> <p>そういうリアル住民に訴えをしっかりと理解してもらわなければならない。</p> <p>地域おこし協力隊員がよいのではないか。</p> <p>そのとおりである。</p> <p>そういう人たちが中心になりつつデジタルを支援する。</p> <p>例えば、田植えの経験をしてもらうために田植イベントで募集し、参加してくれた人にお米を10キロくらい送るといったことである。</p>
副座長	<p>そのあたりも含めてもう少し書き込んでおかないと、市長が見ても「昔からやれと言っている」で祝ってしまう。</p>
C委員	<p>1つお聞きするが、これはどれくらいの規模感を持っているのか。</p>
副座長	<p>すごく小さなところからできると思う。</p>
C委員	<p>ふるさと住民登録制度のプラットフォームの活用で登録される方はどれくらいの規模になるのか。</p>
A委員	<p>総務省が用意するが、アプリの良し悪しに左右されると思う。</p> <p>総務省には、その地域で何をしたいのかを書けるようにしてくれと要望している。</p> <p>「1日中魚釣りをしたい」と書く人もいるかもしれない。</p>
副座長	<p>何故登録したのかを聞けるようにカスタマイズできるようにしてほしいというリクエストはしている。</p> <p>「さどまる倶楽部」の会員にどんどん住民登録してもらうようにプロモーションすることが大事である。</p> <p>その時に、よく分からないフォームを送り付けて、年取を書かせたり、問い合わせ先がなかったり、どこが何の理由でそのフォームを作ったのかも書いなかったりというようなことがないようお願いする。</p> <p>結局、そのあたりも含めて整理整頓してデザインする人がいないとバラバラになってしまいそうである。</p>
<p>A委員</p> <p>椎室長</p> <p>C委員</p>	<p>そういったふるまいやビヘイビアは大事である。</p> <p>ちなみにC委員の先ほどのご意見は、自らがファシリテーターを担いたいということか。</p> <p>そうではない。</p>
座長	<p>ただ、佐渡の人ではない方がよいのではないかと思った。</p> <p>佐渡は、何でもまずは自分たちの集落で困いたがる傾向があると思う。</p> <p>例えば鬼太鼓の支援をしたいという学生が来ると、「じゃあうちの集落に來い」となって、その集落だけでやるというような感じになるので、やはり俯瞰的に見る人がよいのではないか。</p>
副座長	<p>市外ベースの人ではあるが、地元の人たちに振る舞いやビヘイビアというところも配慮ができて、スピリチュアルな繋がりを持ってもらえそうな人は限られている。</p> <p>勝手な推測かもしれないが、地域おこし協力隊にお願いするのはなかなか難しいのではないかと思っていて、そんなにすごい振る舞いができる人がいきなり来るイメージがない。</p>

座長	この仕組み専用で募集しないといけないのではないかな。
副座長	そんな感じがするので、それまではお2人に引っ張ってもらうのがよいのではないかなと思う。
A委員	ファシリテーターは必要だと思う。
副座長	地域おこし協力隊員の人たちの意見は少し聞きに行けばよいと思う。 ファシリテーターは、しばらくは必要である。 ある程度DAOが自立的になるまでは。 明らかに今まで市長が思いつかなかったことを書いておかないと何の興味も示さないと思う。 「2. 一次産業のDX推進化に向けた支援窓口を担います」のところは先ほどの切り口を書いておけば市長の予想を超えていると思うので、「1. 交流人口拡大から定住人口増加に向けた交流プラットフォームの構築」についても今のような感じで何らか具体的なものを入れておかなければいけない。
A委員	「佐渡DAO」はもっと大きく書くべきだと思う。 ふるさと住民登録制度のプラットフォームをベースに「佐渡DAO」を構築し、既に佐渡にある「さどまる倶楽部」等の佐渡ファンデータをふるさと住民登録制度のプラットフォームに繋げるという理解でよいかな。
椎室長	そのとおりである。
副座長	そうすると二地域居住の人たちが佐渡に増えるということだけでも市長は喜ぶ。 しかしそれは恐らく市長の頭の中には元々あって誰かも言っている話なので、佐渡DAOを構築して、その人たちが佐渡で実際に二地域居住をしていたとしても、島の外に仲間を作ったり、島の中で色々な活動したりして、島民の人たちと色々なことをやり出すような仕組みもないと駄目だと思う。
A委員	「Discord」や「コミュニケーションツール」は削除して、もっとシンプルに「佐渡DAOが何をする」「それがこれを回す」というような書き方でよいのではないかな。
副座長	そのとおりである。
座長	これがうまく機能し始めると、「地域経済の活性化」や「地域の担い手確保」も動き始めるのではないかな。
副座長	その情報が、所謂ヒアリングがかなり議論された状態でSadoconみたいなところに挙がってくるような機能にすれば、デジタルとリアルの融合のような形でうまく回っていくのではないかなと思う。
座長	それでは時間も限られてきたが、まとめたいと思う。
副座長	P.6はこのままでいい気がしている。 ただ、「AI」と書いていながらAIがどこにも入っていないので、1つめと2つめの中にAIが入っていればそれでよいという気はしている。
A委員	「デジタル労働力」を言いたかっただけである。 「AIを活用しましょう」というよりは、人口減少の中で24時間稼働可能な労働力があると言いたいのである。
副座長	しかし、P.7の2つめのDX化もAI駆動開発でやるというしかないなので、それは書いてもよいのではないかな。 完璧なものは作らないけど、動けるものは市内のエンジニア有志が作りますという仕組みである。
椎室長	5) が総括的なイメージと感じた。 その世代その世代に必要な施策はその世代が作っていけばよいが、ネイチャーポジティブだけはその時になって立て直せないから、今のうちからしっかりと守らなければいけないというイメージなのかなと思っている。 これが前文にあって、その後ろに1) ～4) が続いてもよいのかなと思う。

A委員	イメージはそのとおりである。 エグゼクティブサマリーとして一番上にあって、1)～4)という流れだが、「4」という数字が少し悪かったので項目を5つにしたいと思った。
椎室長	もし可能であれば2) 3) を1本にまとめて3本にするのはいかがか。
A委員	よいと思う。
椎室長	承知した。
座長	それでは少し時間も押しているが、次の議事に移る。
座長	2) その他（3月25日の日程） アジェンダP.6について事務局より説明をお願いする。
椎室長	（アジェンダP.6の内容について説明）
座長	事務局の説明に何かご意見等あるか。 なければ、副座長よりあいさつをお願いする。
副座長	4 副座長あいさつ 提言して終わりではなくて、まずは話を通すことがスタートである。 25日は全員いらっしゃるということで頑張って通したいと思う。 市長の圧力に負けないように、それからこのポンチ工を改善しておくことが結構大事である。 もっとわかりやすく、市長を唸らせる内容でなければならない。 まずもう一回直すところをお手伝いいただきたいということ、当日通すところまで皆さまのお力添えをお願いする。 本日も感謝を申し上げる。
	5 閉会